

佐世保中央病院広報誌

はばたき

Sasebo Chuo Hospital
Public Relations
Magazine

HABATAKI

vol. 181

2024
夏・秋号

医療を通して人を知る

特集 心筋梗塞



特集

心筋梗塞

人の数だけ違う、病気のあれこれ。その人だけの思い。それでも、生活は続く。

取材・文〓梅本真実
写真〓中村友香

患者さまインタビュー

自分だけが分かる違和感を信じる、伝える。

4年前に急性心筋梗塞を患った森下晶雄さん(55)。症状として広く知られる「締めつけられるような胸の激痛」はなかったという。発症当時の様子や治療後の生活について伺った。

突然のICU

4年前の夏、とある土曜日に少し息苦しさを感じていた。翌日も胸と背中が痛み、悩んだ末119番するも「翌日かかりつけ医に」と言われた。翌朝に

なると症状は治まり気味で、近医に寄って職場へ向かおうと、いつもの作業着姿で家を出た。

心電図を取るなり、慌てふためく医師。救急車で佐世保中央病院に運ばれ、即座にカテーテル治療となった。術後の経過が悪く、10日ほど集中治療室(以下ICU)に。「大変なことになったな」。身動きがとれない状態に陥るとは思いもよらず、心が追いつかなかった。コロナ禍での入院。ICUから一般病棟に運ばれながら、母と短い言葉を交わした。



リハビリを始めると、驚くほど体が重かった。「最低限、元の生活に戻りたい」という気持ちと、思うように動かせない体。

回復に時間がかかり、通常だと2〜3週間の入院が約2か月に。仕事の状況を確認するといった日常との関わりが、支えだった。

できることを
できる範囲で

以前から高血圧と糖尿病を抱え服薬していたものの、タバコは日に1〜2箱。「持

病を甘くみていた自分に原因があった」と振り返る。現在は毎朝10種類の薬とインスリン注射^{※1}、晩に2錠を服用し毎月1.5



病を甘くみていた自分に原因があった」と振り返る。現在は毎朝10種類の薬とインスリン注射^{※1}、晩に2錠を服用し毎月1.5

万円ほどかかる（これでも退院直後からは半減した）。タバコは自然と吸わなくなった。入院を機に食事を意識する

「定期的に受ける負荷心電図^{※2}が苦手。心臓より足がもたなくて」と笑う森下さん。もっと運動した方がいいとも思うが、「できることを、できる範囲で、ただやるだけ」。日課の散歩を、より意識的に続けている。

違和感を
伝えられるように

自覚はないが、我慢強いと言われてきた。尿管結石^{※3}の激痛を経験していたこともあり、胸の痛みが差し迫ったものだとは思わなかった。「普段と違う」という感覚が、一般的な症状とイコールではない場合もあるということを、多くの人に知ってほしい。

「なってしまったものは仕方ない。大事なのは、ここからどう

かり休むように。週末は趣味のドライブを楽しみ、好きなものを食べて息抜きしている。

「定期的に受ける負荷心電図^{※2}が苦手。心臓より足がもたなくて」と笑う森下さん。もっと運動した方がいいとも思うが、「できることを、できる範囲で、ただやるだけ」。日課の散歩を、より意識的に続けている。

「まだ我慢の気^けはあるけど、自分だけが分かる違和感はないとね」。



Interview

もりした
森下 晶雄さん
機械設計士・55歳

ドクターインタビュー

取材・文・写真＝梅本真実

「診察が楽しみ」だと 思わせたい

「じゃあ、また！」と患者を見送る落合朋子医師。その声は楽しい約束でもしたかのように弾んでいて、こちらまで気持ちが明るくなった。「病院にいるだけで嫌だろうから、むしろ『来た』』『診察が楽しみ』だと思わせたい。それが、継続的な治療につながる」という落合医師に話を聞いた。

心臓に血液を送る冠動脈が詰まって血流が止まり、心筋（心臓の筋肉）が壊死する心筋梗塞。血管の老化現象である「動脈硬化」が原因で起こる。加齢に加え、高血圧や脂質異常症[※]、糖尿病や喫煙などのリスク因子によって硬化が進むと、血



Interview

循環器内科部長

落合 朋子 医師
おちあい ともこ

管は弾力を失い傷つきやすい状態に。プラークとい

う脂肪の塊（脂が膜で覆われたニキビのようなもの）が、血管の壁に付着しやすくなる。何らかの原因でプ

ラークが突然破裂すると、補修しようとは血栓（かさぶたのようなもの）ができ、血管はふさがれてしま

まう。

安静時の胸の痛みや圧迫感が代

表的な症状だが、歯や肩、脇、背中などが痛むことも。糖尿病の人は痛みを感じにくい。症状が30分以上続く場合は、我慢せずに救急要請が必要。数時間経

つと、細胞が壊死して痛みを感じなくなる可能性もある。

治療はスピード勝負。当院では、病院に着いて90分以内に血流を再開させるカテーテル治療をする。24時間・365日、すぐに検査・診断し、治療する体制を整えている。

動脈硬化は症状がないため、放置されやすい。「高血圧だけでも無症状だから大丈夫」といった考えが命取りに。「一度傷ついた心臓は、元には戻らない。とにかく予防第一だと声を大にして伝えたい」（落合）。日々の暮らしを整えることが、再発防止にもつながる。

「医師になる前に、患者になってよかった。何が不安なのか身をもって知ることができた」と話す落合は、10代前半で外科手術を経験。全てが怖くてたまらなかつた。機械的に処置をす

※ 血液に含まれるコレステロールや中性脂肪などの脂質成分が異常値を示す状態

る当時の医師の姿は、そんな恐
怖心に拍車をかけた。自分のよ
うな患者を一人でも減らした
いと医師の道へ。診断から退院
後のフォローまで、患者と長く
つき合う内科医を選んだ。

限られた時間で多くの患者
を診る外来診察では、「短時間
でも、満足度は高く」をモット
ーに、患者の目を見て傾聴す
る。「カウンセリングのようにな
ることも」と目を細める。
「治療の主役は患者。本人のが
んばりがなければ、医師はいら
ない」と語る落合。患者
の意味がない」と語る落合。患者
の気持ちを第一に、安心して暮
らせるよう奔走する。

Profile

1984年福岡市生まれ。2008年長崎
大学医学部卒業。2010年に長崎大学病
院循環器内科入局。長崎市民病院（現・長
崎みなとメデイカルセンター）、嬉野医療
センターを経て2015年から当院。総合
内科専門医、心血管カテーテル治療専門
医。ロック音楽、料理、おいしいものを食べ
ることが好き。

落合医師に聞く！

心筋梗塞 Q&A

Q 心筋梗塞はどんな病気？

A 心臓に血液を送る血管（冠動脈）が
詰まり、心筋が壊死する病気です。心
不全^{*}などの合併症を引き起こし、最悪の
場合死に至ります。

※ 心臓のポンプ機能が低下し全身に血液を送り出せなくな
る状態

Q 症状は？

A 安静時に強い胸の痛みや圧迫感が
30分以上続きます。「心臓が握りつ
ぶされているみたい」「重たいものが乗っ
ているみたい」と言う患者さんが多いで
す。胸ではなく肩や脇、顎や歯の痛みを訴
える人、痛みを感じにくい人（糖尿病の
人）もいます。冷や汗は危険信号。我慢せ
ずに救急要請してください。



Q どんな治療をするの？

A 冠動脈の血流を再開させるカテー
テル治療が主流です。局所麻酔をし
て、手首や足のつけ根からカテーテル（直
径数mmほどの柔らかい管）を挿入。カテ
テルから造影剤を流し、レントゲンに映し
ながら狭窄状態や閉塞部を確認し、ステ
ント（網目状の金属製チューブ）を留置し
て血流を改善させます。身体への負担が
少ない治療法です。

Q 原因は？

A 血管の老化現象である「動脈硬化」
です。動脈硬化の危険因子は、高血
圧や肥満、血糖値やコレステロール値が
高い状態、喫煙、遺伝など。動脈硬化自体
は症状がないので放置されやすく、日頃
の健康管理が何より重要です。

Q 完治する病気なの？ 予防は？

A 残念ながら一度傷ついた心臓は元に戻らず、一生つきあっていく病気です。予防と再発防止のためにも、生活習慣の改善が欠かせません。▽塩分や動物性脂肪を控えたバランスの良い食事▽適度な運動▽禁煙▽服薬による高血圧や糖尿病の管理—などを心がけ、日常生活をしっかりと整えましょう。

医療ルポ

現場のまなざし

患者さんのよりよい
明日に向け連携する
専門職たち。その姿を
写真で紹介します。

VOL①
アンギオ室
(循環器内科/血管内治療)

的 確 信 治 療 へ
安 心 感 を 与 け て い



ここは、アンギオ室と呼ばれる。
血管造影(アンギオグラフィ)検査や血管内治療・カテーテル治療をする検査室。検査・治療では、手首や足の付け根の血管から細い管(カテーテル)を入れ、その先から薬(造影剤)を注入して血管を撮影する。360度あらゆる角度から撮った画像をモニターに映し出し、その流れや形状、病変部を確認しながら治療を進めていく。



血管造影装置



臨床検査技師

血管内エコー検査※から
血管内部の詳細を明らかにする
血圧や心電図チェックも担当

※超音波を送受信する装置を取り付けたカテーテルを血管内に入れて行う検査。血管内部の付着物を検査したり太さや長さを測ってステント(血管内に留置して狭窄部などを拡げる金属製チューブ)サイズを決めたりする。



放射線技師

手術に不可欠な画像を医師用モニターに映し出す
最適な画像を短時間で示す「あうんの呼吸」が求められる

それゆがその道の
プロフェッショナル
で、で、ひびき、い



看護師

患者さんに絶えず声をかける
「些細な変化も見逃さない」



医師

患者さんはチームの一員
今から何をするのか、どれくらい時間がかかるのかなど
処置のプロセスを伝えながら治療を進めていく
「あと少しですよ。がんばりましょうね」

JOB **スペシャリスト**

高度化し、専門分化が進む医療。その現場には、高度な技術を持つと認められたスペシャリストたちがいる。



#02

心不全療養指導士

おおぞの みほ
大園 美穂

看護師/2019年入職。2023年資格取得

心不全の発症・重症化予防にあたる医療者のスキルアップのための資格(2021年に日本循環器学会が創設)。退院後も患者が安心して生活できるよう、食事や運動、生活習慣へのアドバイスなどを通して日常生活を支える。

病気を理解し「自分で自分を診る」意識を

心不全は完治せず、ずっとつきあっていく病気。症状が安定した状態を保てるか、症状が悪化していくかは、日頃の生活にかかっている。その心構えが、心不全とつきあう上で欠かせない「日常生活の改善」と「自分で自分を診る」という意識につながっていく。

「聞いたことはある病気だけど、よくわからない」という患者も多く、どのような病気かを初めにしっかり伝えるよう心掛けている。入院中は、毎日の血圧・体重測定を基本に、自分の異変に気づくための習慣を身につけられるよう指導を徹底。退院後は、むくみや呼吸などにつ

いての受診目安が書かれたチェックリストを渡し、症状が悪化したらすぐに病院に行けるようサポートしている。一人暮らしの方など気になる患者に対しては、自宅を訪ねて生活の様子を確認。必要に応じてヘルパーを手配するなど、多職種と連携している。

家族にも言えずに症状を我慢してしまう人や、症状に気づかず再入院になる人も多い。家族や医師に言えないことをすくい取り、一人ひとりに合ったサポートで、心不全とともに生きていく患者や家族に寄り添っていきたい。

 **Check point**

当院では、自ら研鑽を積み、医療の質の向上に貢献する職員を支援するために資格取得を奨励、支援する制度があります。部門・施設への貢献度に応じて、奨励資格・支援資格・評価資格が指定されています。奨励資格に合格すると一定の奨励金が支給され、支援資格にエントリーすると受験料・受講料、テキスト代、交通費が一定額まで支給されます。



法人採用情報は
こちら



出前講座を開催しました

6月20日、黒髪町三組公民館にて当院歯科衛生士による出前講座を開催しました。「お口の健康と悪化予防」のお話と、口腔体操をしました。

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



関連施設情報

リハビリサポートひうみ オープン!

6月1日、佐世保市ひうみ町に介護老人保健施設リハビリサポートひうみがオープンしました!

“家に帰りたい”を叶える施設として、職員一丸となって利用者さんをサポートいたします。



お問い合わせ

入所サービス ☎ 0956-37-9850

通所サービス ☎ 0956-37-9851



ホームページは
こちら

新任医師のご紹介

りゅう 雄太郎 心臓血管外科 (6/1~)

ふせ 正樹 健診科 (6/1~)

ふじた 千晶 健診科 (7/16~)

こじま 加奈子 リウマチ・膠原病内科 (8/1~)

よろしくお願ひいたします!

手術支援ロボットダビンチ[®]を導入

ロボット手術開始は2024年9月頃を予定

※米で開発された内視鏡手術支援ロボット



手術支援ロボットとは

傷口が小さく患者さんの身体への負担が少ない手術（低侵襲手術）で使用されるロボットのことで、腹部に8~12mmほどの小さな穴を開け、器具を挿入して手術します。従来の手術と比べて出血量が極めて少なく、傷口が小さいため回復が早いのが特徴です。

人間の手以上の複雑かつ繊細な手術が可能に

3Dカメラで体内を立体的に映し、ズーム機能で患部を拡大することができます。人間の手よりも可動域が広いロボットの手。手ぶれ補正機能もあり、従来の腹腔鏡手術よりも正確で繊細な手術操作ができるようになります。



認定資格を持つ医師による手術

所定のトレーニングを修了し、認定を受けた医師のみがロボット手術を行います。術者とロボットの連動で、より高い安全性と確実性を実現します。

対象となる疾患

当院におけるロボット手術の対象疾患は、胃癌・直腸癌・結腸癌です。将来的に、対象疾患を増やしていきたいと考えています。

ロボット手術（ダビンチ）で
患者さんの早期退院・社会復帰を支援します

表現者 MOMOKA

佐世保生まれ。2024年より就労継続支援B型事業所 MINATOMACHIFACTORY所属。幼少期、絵本作家に憧れ、動物や人物のイラストを描き始めた。自然と心で感じたことを表現することが好きで、カラフルな配色を特徴とする。はじめは鉛筆やクーピーを使っていたが、現在は水彩や切り絵など様々な表現方法に挑戦中。今回のイラストは「見てくれた人が笑顔になるとうれしい」という想いを込めて描いた。

表紙を飾る作品は、佐世保地区障がい者就労支援協議会加盟事業所に通われる利用者の方々から応募いただいたものです。応募作品38点は全て、当院1階の売店前に展示しております。是非ご覧ください。



作品名：あさがお

外来受診をご希望の方へ

すべて時間帯予約制となっておりますので、お電話にてご予約ください。初めて受診される方は、原則としてかかりつけ医療機関からの紹介状が必要です。紹介状が無い場合、通常の診療費に加えて初診時選定療養費7,700円（税込）をご負担いただきますので、ご了承ください。

【紹介状がある方

☎0120-33-8293(地域医療連携センター)

【再診/紹介状のない方

☎0800-7000-888(コールセンター)

※土日祝は休日診療体制です。

※救急部は24時間体制です。

※医師の都合により休診となる場合があります。

Instagram

インスタはじめました。
フォローよろしくお願いします！



就労支援相談会のご案内

がん・肝炎・糖尿病など、長期療養が必要な方を対象に開催しています。ご希望の方はお気軽にご連絡ください。

【開催日 毎月第1水曜日10:00～14:00

【内容 治療と仕事の両立について
体調に合わせた職業紹介制度のご案内など

【お問合せ がん支援相談センター ☎0956-33-7151

健診をご希望の方へ

すべて予約制となっております。窓口へお越しいただくか、電話またはホームページよりご予約ください。

【ご予約・お問合せ

予防医療センター

☎0956-33-5335 fax0956-33-5336

✉sch-kenkoh@hakujuujikai.or.jp

【受付時間

平日9:00～12:00 / 13:00～16:00

ホームページは
こちら

voice

「はばたき」のご感想や
ご意見などをお聞かせください。



archive

過去の「はばたき」は
ホームページよりご覧いただけます。



【取材・文】梅本 真実

食いしん坊・暴れん坊姉妹の母。元新聞記者で現在はフリーランス。

【写真】中村 友香 Cafuné

フリーカメラマン。さりげなくもかけがえのない瞬間を逃さない。

【デザイン】ASHITAKA DESIGN

佐世保を拠点にデザインの可能性を探求・挑戦するクリエイター。

【印刷】オムロプリント

心揺さぶるものづくりで人と人を繋げる。日々新たな価値創造に挑み続ける。

【協力】佐世保地区障がい者就労支援協議会

「福祉が育つ街づくり」をモットーに誰もが住みやすい街づくりを目指す。